

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 9 月 3 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
アメリカ合衆国、シカゴ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
国際霊長類学会・アメリカ霊長類学会合同大会
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 8 月 20-29 日 (10 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
リンカーンパーク動物園
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
2016年8月20-29日、シカゴで開催された国際霊長類学会に参加した。学会参加の目的は、世界の最新の研究の動向を理解すること、私自身が研究対象としている野生ボノボについて、他の調査地で研究している海外研究者との情報交換を行うことであった。
研究発表は遺伝学、および行動学のセッションを中心に聴講した。というのは、私自身が行動、遺伝の両面から野生動物の社会を明らかにする研究を行っているからである。私が出席した遺伝のセッションは、大きく「全ゲノムシーケンス」、あるいは「マイクロサテライト分析」に分けられた。全ゲノムシーケンスでは種以上のレベルでの集団遺伝学研究が多く、次世代シーケンサー(NGS)を用いるために方法が複雑であった。私は自分の研究において、個体識別がされている複数個体の遺伝情報を調べ、その遺伝的関係が野生動物の社会とどのように関係しているかを知ること面白みを感じている。よって、今回NGSが用いられて行われていた研究は、私の関心からはやや外れていた。得られるデータ量がけた違いに多い次世代には注目しているが、今回の発表を聞いてみても、NGSを私自身が魅力を感じるような研究に結び付けるのはまだ困難かもしれないと感じた。一方マイクロサテライト分析では、集団内の血縁関係や、繁殖成功を扱うものが多かった。これらは現在の私の研究テーマである。これらの発表では、集団遺伝学研究の発表の行い方がとても勉強になった。私はこれまで、集団遺伝学独自の検定結果や、独自の指標値をどこまで研究発表の場で提示するかを悩むことが多かったが、多くの発表を聞くことで、どの程度提示することが必要なのかがおおよそ理解できたと思う。今後は、全ゲノム分析による血縁関係や、繁殖成功を明らかにした研究を知ることができればと思う。
行動のセッションはかなり種類が多く、視点が多様であった。全体として感じたことは、日本人と欧米人の議論の進め方の違いだ。欧米人は皆、ランガムの古典的な社会生態学理論からほとんど外れずに議論している印象であった。勿論日本人も理解しているのだが、この理論への比重の置き方は全然違うように感じた。これは、良し悪しではなくてスタンスの違いだろう。また、長期データを用いた研究も比較的多いように感じた。一方印象に残ったセッションは「寛容な霊長類」というシンポジウムと、集団間関係を扱ったセッションだ。私は個人的に、激しい争いの少ない霊長類が好きなので、寛容な霊長類の発表は総じて面白かった。また、私はボノボの集団間関係に注目して研究しているので、集団間関係の発表も勉強になるものが多かった。霊長類の中ではボノボよりも高い頻度で集団間が会う霊長類種もある。これらの種の中のほとんどすべては出会い時の交渉が攻撃的であるが、場合によっては親和的交渉も起きる。様々な霊長類の隣接する複数集団を対象として集団間関係とそれらの間の遺伝構造の関係を明らかにし、霊長類の地域コミュニティ形成の進化史を明らかにするのも面白そうだと感じた。
また、他のボノボ調査地の研究者と話す機会をいただいた。会話自体はお互いに自分の研究を短く紹介する程度であったが、他の調査チームでも研究が進んでいる様子を感じると、やはり刺激を受けた。今回の学会参加で得た経験を生かし、できるだけ面白く、かつ早く自分の研究を成果にできるように努力していきたい。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



開催式が行われたリンカーンパーク動物園



多くの動物剥製が展示されるフィールドミュージアム

6. その他 (特記事項など)

この学会の参加にあたり、PWS リーディング大学院プログラムからの支援を受けました。PWS プログラムに感謝申し上げます。